

自立をふまえて（どの子ども共に生き，共に育つ）

～一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方～

I 主題設定の理由

近年，東山梨地区の特別支援学級数は増えているが，1学級の在籍児童生徒数は少人数化し，知的・情緒・肢体不自由・難聴・弱視と多様な障害にわたり，なおかつその程度も重くなっている。そのため，一つひとつの学級が抱える悩みは深くかつ多様化しているのが現状である。そして，在籍・通級及び特別に支援を必要としている子どもたち一人ひとりの障害の状況や発達段階，その特性に合わせた支援は，どの学級についても共通した重要な研究課題である。

そこで本年度も，授業実践・学習会・情報交換などを通して，児童生徒の理解と支援方法などを模索し，社会で生きていけるように児童生徒一人ひとりの実態に合わせた支援内容，支援の方法に迫るべく本主題を設定した。

II 研究の内容と方法

1 研究の具体的な内容と方法

- (1) 全体会や小・中部会ごとに講師を招いて学習会を行い，理解を深める。
- (2) 中部会ごとにテーマを絞って児童生徒の実態を考えた教材研究を行い，個に応じた授業づくりをする。統一授業研では，指導助言者を招いて研究を深める。
- (3) 小部会ごとに情報交換や実践発表を行い，一人ひとりの児童の実態をふまえた効果的な支援のあり方を探る。
- (4) 授業実践や実践報告の方法や形態について話し合い，次年度に向けて見通しを持つ。

2 学習会の実施

- ・ 8月4日 〈全体会〉

伊波 美恵先生（かえで支援学校 特別支援教育コーディネーター）

「子どもの力を発達させる支援のあり方」

- ・ 8月29日 〈全体会〉

福永 美奈先生（総合教育センター 研修主事）

「子どもに分かりやすいユニバーサルデザインの授業」

〈通常学級における特別支援部会〉

福永 美奈先生（総合教育センター 研修主事）

「統一授業研に向けて」

3 授業研究

(1) 知的障害部会授業研究

算数「分数を考えよう」

授業者 : 大藤小学校 武井 敏江教諭

指導・助言者 : かえで支援学校 飯嶋 多美恵先生

(2) 自閉情緒・通常学級部会授業研究

学級活動「卒業に向けて自分たちにできることを考えよう」

授業者 : 牧丘第二小学校 阿部 伸之介教諭

指導助言者 : 後屋敷小学校 榊原 俊二校長先生

松 里小学校 河西 美代司教頭先生

4 小部会研究

(1) 知的障害部会 (2) 自閉症・情緒障害部会

(3) 通常学級における特別支援教育小部会

III 成果と課題

1 成果

- (1) 三つの学習会を実施したことにより、児童の力を発達させる支援と、ユニバーサルデザインの授業がインクルーシブ教育を支えていくことを確かめることができた。それを生かして児童の実態をふまえた支援や授業づくりについて幅広い研修することができ、日常実践に役立てることができた。
- (2) 統一授業研に向けて中部会で共同研究したことで共に学び合うことができた。今年度は、特別支援学級だけでなく普通学級でも研究授業を行うことができ、インクルーシブ教育につながる支援について深く考えることができ、有意義な研究授業が行えた。教科学習や交流学級での支援について大切なことを具体的に研究することができた。指導案検討の段階から助言者に指導を受けることができた点も有効だった。
- (3) 一昨年から課題として出されている統一授業研をもつ時期について、見通しをもちながら進めることができ、児童の特性から考えて後期に実施することがよいとの結論に至ることができた。
- (4) 小部会研究では、児童の特性に合わせて研究を進めたことで、状況が似ているケースについて 実践報告や情報交換をすることができた。どのような支援が効果的かを深く話し合い、日々の実践に生かすことができた。

2 課題

学校内では、特別支援学級在籍児童だけでなく、様々な児童について支援を求められている。そうした要求にも対応できるよう部会体制を工夫していく必要がある。そのためにも特別支援学級の担任だけでなく、様々な立場から研究に参加してもらい、研究授業にも今年度のように様々な視点から討議できるとよい。

(部長 名取 美和)